

特集：矢作川上中流域の河畔林

調査報告

矢作川上中流域のトンボ

Odonata in the upper and middle of the Yahagi River

吉田雅澄

Masazumi YOSHIDA

要 約

- 1) 豊田市の矢作川中流域から10科60種のトンボを確認した。
- 2) 流水性種を20種確認できたのは当地が県下有数のトンボ生息地である事を意味する。うち3割は上流から流下してきた種であり、上中流域が重要な生活の場となっている。
- 3) 止水性種を40種確認できたのは、多様な止水環境を含む河畔林の存在が大きい。
- 4) 2000年以前に記録したオオイトトンボ等7種は再確認できず、絶滅の可能性が高い。また現存するキイロヤマトンボも1980年代に比べると明らかに減少している。

キーワード：矢作川、トンボ、河畔林、止水

はじめに

筆者は1984年以来、矢作川を訪れ、トンボ目の調査を行ってきた。2006年には豊田市矢作川研究所から河畔林調査を依頼され、綿密な調査を行うことにより新たな知見を得ることもできた。そこで過去のデータも含めて矢作川上中流域のトンボについて整理しておきたい。

調査地・調査方法

平成の大合併後の豊田市を流れる矢作川（矢作第二ダム下流から巴川合流地点）で確認したトンボについて報告する。トンボの成虫は陸上生活をおくり、移動性のある種も多いことを考慮し、矢作川本流だけでなく、支流の河口域や河畔林、周辺の水田等も調査対象に含めた。

調査方法は、ネットによる陸上および水中の採集と、目視（双眼鏡も使用）、または撮影による確認とした。外見の類似した種については、ネットインまたは種が確認できるまで接近して同定した。

○調査地一覧

調査地を上流から順に記す。町を基本単位としたが、トンボの生息環境等により細分化した場所もある。8桁と7桁のメッシュコードを付す。

1. 豊田市〔旧旭町〕時瀬町（上時瀬）
5237-63-80 [5237-63-3]
2. 豊田市〔旧旭町〕時瀬町（下時瀬）
5237-63-80 [5237-63-3]
3. 豊田市〔旧旭町〕小渡町串毛
5237-62-79 [5237-62-4]
4. 豊田市〔旧旭町〕下切町
5237-62-79 [5237-62-4]
5. 豊田市〔旧旭町〕島崎町（小渡町小柳を含む）
5237-62-68 [5237-62-4]
6. 豊田市〔旧小原村〕樽俣町
5237-62-66・67・77 [5237-62-4]
7. 豊田市〔旧旭町〕有間町
5237-62-66 [5237-62-4]
8. 豊田市〔旧小原村〕平畑町
5237-62-56・66 [5237-62-4]
9. 豊田市〔旧旭町〕笹戸町
5237-62-56 [5237-62-4]
10. 豊田市〔旧小原村〕築平町
5237-62-55 [5237-62-4]
11. 豊田市〔旧旭町〕市平町
5237-62-45 [5237-62-2]
12. 豊田市〔旧旭町〕池島町
5237-62-34 [5237-62-1]
13. 豊田市〔旧小原村〕百月町
5237-62-33 [5237-62-1]
14. 豊田市〔旧足助町〕月原町（百月発電所の南東対岸）
5237-62-33 [5237-62-1]
15. 豊田市〔旧足助町〕月原町（阿摺川河口域）

- 5237-62-11-12 [5237-62-1]
 16. 豊田市 [旧足助町] 月原町 (摺小川河口域)
 5237-62-00-01 [5237-62-1]
 17. 豊田市西広瀬町 (飯野川河口域)
 5237-51-77-87 [5237-51-4]
 18. 豊田市東広瀬町
 5237-51-77 [5237-51-4]
 19. 豊田市砂町
 5237-41-93 [5237-41-3]
 20. 豊田市渡合町 (巴川河口域)
 5237-41-34 [5237-41-1]

調査結果

これまでの調査で10科60種を確認できた(表参照)。調査地毎に特徴とデータを記すが、データには確認日を「日-月-西暦」の順に記載し、成虫・幼虫・羽化殻に分けて和名を記す。成虫の採集時は頭数および♂♀を記し、目撃や撮影による確認時には頭数を記さない。幼虫や羽化殻を採集、目撃、撮影した場合は和名のみを記す。筆者以外のデータには採集者の名前を記す。なお同様の内容が多く含まれるデータは割愛した。

1. [旧旭町] 時瀬町 (上時瀬)

矢作第二ダム下流は通常は水量が少なく、川底に藻が生えるような状態となっていることから流水性種の幼虫は非常に少ない。その一方で岸辺には小池が点在し、川ではありながら相対的に止水性のトンボが多く確認できた。なお下記データには右岸の岐阜県恵那市側の記録も含まれている。

21-IV-2007 成虫：オオカワトンボ、ダビドサナエ、ヨツボシトンボ；幼虫：ハグロトンボ、モノサシトンボ、アジアイトトンボ、クロイトトンボ、ホンサナエ、ヤマサナエ、ダビドサナエ、オニヤンマ、シオカラトンボ、ショウジョウトンボ、コシアキトンボ

1-VII-2007 成虫：アオハダトンボ、モノサシトンボ、クロイトトンボ、コオニヤンマ、シオカラトンボ、ウスバキトンボ；幼虫：ハグロトンボ

20-VII-2008 成虫：ハグロトンボ、モノサシトンボ、アジアイトトンボ、クロイトトンボ、オナガサナエ、コオニヤンマ、ハラビロトンボ、シオカラトンボ、ショウジョウトンボ、ミヤマアカネ、マユタテアカネ、ヒメアカネ；幼虫：ハグロトンボ、コヤマトンボ

2. [旧旭町] 時瀬町 (下時瀬)

時瀬発電所のすぐ北西に砂地が広がっており、サナエトンボ類やキイロヤマトンボの産地となっている。当地が矢作川におけるキイロヤマトンボの最上流生息地であ

る。参考までに同種の矢作川最下流の記録は安城市藤井町(吉田, 2008c)である。

1-IV-2007 幼虫：ハグロトンボ、カワトンボ、ミルンヤンマ、ホンサナエ、ダビドサナエ、オニヤンマ、シオカラトンボ

1-VII-2007 成虫：ハグロトンボ、クロイトトンボ、オオシオカラトンボ、ウスバキトンボ；幼虫：ハグロトンボ、オニヤンマ、ミヤマサナエ、ホンサナエ、ダビドサナエ、アオサナエ、コオニヤンマ、キイロヤマトンボ；羽化殻：オジロサナエ

22-IX-2007 成虫：ハグロトンボ、アジアイトトンボ、ギンヤンマ、シオカラトンボ、ウスバキトンボ；幼虫：ハグロトンボ、ダビドサナエ、アオサナエ、キイロヤマトンボ、コヤマトンボ

28-VI-2008 成虫：アオハダトンボ、ショウジョウトンボ；幼虫：ハグロトンボ、アオサナエ、ミヤマサナエ、ダビドサナエ、オナガサナエ、コオニヤンマ、オニヤンマ、キイロヤマトンボ、コヤマトンボ；羽化殻：オナガサナエ

3. [旧旭町] 小渡町串毛

笹戸ダムのすぐ下流で、広い河川敷があり、その一部には水が溜まり、止水性のアカネ類等の幼虫が確認できる。流水性の種ではコシボソヤンマの幼虫が採集されており、矢作川における最上流の記録となっている。

15-VIII-2006 成虫：クロイトトンボ、オナガサナエ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ショウジョウトンボ、マユタテアカネ、コシアキトンボ、ウスバキトンボ；幼虫：モノサシトンボ、アジアイトトンボ、ギンヤンマ、ヤマサナエ、ダビドサナエ

19-VIII-2006 成虫：ハグロトンボ、コオニヤンマ、コヤマトンボ、シオカラトンボ、ウスバキトンボ；幼虫：ダビドサナエ、オナガサナエ、コヤマトンボ

2-IX-2006 成虫：ハグロトンボ、オナガサナエ、マユタテアカネ、ウスバキトンボ；幼虫：ダビドサナエ、アオサナエ、オナガサナエ、コヤマトンボ

24-IX-2006 成虫：シオカラトンボ、ミヤマアカネ、ナツアカネ、アキアカネ、マユタテアカネ、ノシメトンボ、ウスバキトンボ

1-VII-2007 成虫：ハグロトンボ、ヤマサナエ、シオカラトンボ、シオヤトンボ、オオシオカラトンボ；幼虫：アキアカネ、マユタテアカネ

10-VIII-2008 成虫：ハグロトンボ、コオニヤンマ、ハラビロトンボ、シオカラトンボ；幼虫：アジアイトトンボ、コシボソヤンマ、ダビドサナエ、アオサナエ、オナガサナエ、コオニヤンマ、コヤマトンボ

矢作川上中流域のトンボ

表 調査地別の確認種

科名	和名	学名	上時瀬	下時瀬	小渡町串毛	下切町	鳥崎町	樽俣町	有間町	平畑町	笹戸町	築平町	市平町	池島町	百月町	百月の対岸	阿摺川	摺小川	西広瀬町	東広瀬町	砂町	渡合町	流水/止水		
カワトンボ科	アオハダトンボ	<i>Calopteryx japonica</i>	●	●					○	○	○			●			○	○	●	●			流		
	ハグロトンボ	<i>Calopteryx atrata</i>	●	●	●	●	●	●		●	○		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	流	
	ミヤマカワトンボ	<i>Calopteryx cornelia</i>							○															流	
	カワトンボ(アザヒカワトンボ)	<i>Mnais pruinosa</i>		●		●	●	●					●					○						流	
アオイトトンボ科	オオカワトンボ(ニホンカワトンボ)	<i>Mnais costalis</i>	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●			流		
	アオイトトンボ	<i>Lestes sponsa</i>																				●		止	
	オオアオイトトンボ	<i>Lestes temporalis</i>				●	●	○							●	●			●	●				止	
モノサシトンボ科	ホソミオツネトンボ	<i>Indolestes peregrinus</i>				●												●	○					止	
	モノサシトンボ	<i>Copera annulata</i>	●	●	●	●	●	○			○		●	●	●	○	○	○						止	
イトトンボ科	キイトトンボ	<i>Ceragrion melanurum</i>				●												○						止	
	ホソミイトトンボ	<i>Aciragrion migratum</i>				●											●	●	○					止	
	アジアイトトンボ	<i>Ischnura asiatica</i>	●	●	●	●	●		●										○	○				止	
	クロイトトンボ	<i>Cercion calamorum calamorum</i>	●	●	●	●	●	○			○	○	●	●	●	○								止	
ムカシヤンマ科	オオイトトンボ	<i>Cercion sieboldii</i>																	○					止	
	ムカシヤンマ	<i>Tanypteryx pryeri</i>																	○					止	
ヤンマ科	コンボソヤンマ	<i>Boyeria maclachlani</i>			●	●	●		●						●	●	●		●	●				流	
	ミルシヤンマ	<i>Planaeschna milnei</i>		●								●					●			●				流	
	カトリヤンマ	<i>Gynacantha japonica</i>																			●			止	
	ヤブヤンマ	<i>Polycanthagyna melanictera</i>				●	●	○									●							止	
	ルリボシヤンマ	<i>Aeshna juncea</i>												●	●									止	
	オオルリボシヤンマ	<i>Aeshna nigroflava</i>												●	●									止	
	マルタンヤンマ	<i>Anaciaeschna martini</i>				●								●	●							●		止	
	ギンヤンマ	<i>Anax parthenope julius</i>		●	●	●							●				●			●	●			止	
	クロスジギンヤンマ	<i>Anax nigrofasciatus nigrofasciatus</i>				●			○		○		●	●	●	○						●		止	
	サナエトンボ科	ミヤマサナエ	<i>Anisogomphus maacki</i>		●		●			○	●	○	○			●	●	○	●	●	●	●	●	●	流
ホンサナエ		<i>Gomphus postocularis</i>	●	●		●	●	●		●			●	●	●	○		●	●					流	
ヤマサナエ		<i>Asiagomphus melaenops</i>	●	●	●	●	●		●			●	●	●	○		●	○	●	●			○	流	
ダビドサナエ		<i>Davidius nanus</i>	●	●	●	●	●				○		●	●	●	○	○	●	●	●	●	●	●	流	
ヒメクロサナエ		<i>Lanthus fujiacus</i>											●				●							流	
タバサナエ		<i>Trigomphus citimus tabei</i>												●	●					●				止	
オジロサナエ		<i>Stylogomphus suzukii</i>		●		●	●	○					●	●	●				●	●				流	
アオサナエ		<i>Nihonogomphus viridis</i>		●	●	●	●	●	○	●	○	○	●	●	●	○	○	●	●	○	○	●	●	○	流
オナガサナエ		<i>Onychogomphus viridicostus</i>	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	○		●	●	●	●			流	
コオニヤンマ		<i>Sieboldius albardae</i>	●	●		●						●	●	●	●	○	○	●	●	●	●	●	●	流	
ウチワヤンマ		<i>Sinictinogomphus clavatus</i>																		○				止	
オニヤンマ科		オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i>	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	○	●	○	流	
エゾトンボ科		オオヤマトンボ	<i>Epophthalmia elegans</i>															●	○	○					止
	キイロヤマトンボ	<i>Macromia daimoji</i>		●		●	●	●	●	○	○	●	●	●	○	○	●	●	○	○	●	○	○	流	
	コヤマトンボ	<i>Macromia amphigena amphigena</i>	●	●	●	●	●	○	●			●	●	●	○	○	●	○	○	○	●	○	○	流	
	タカネトンボ	<i>Somatochlora uchidai</i>				●											●		○					止	
トンボ科	ハラビロトンボ	<i>Lyriothemis pachygastra</i>	●		●	●								●			●	○	○	○	●			止	
	ヨツボシトンボ	<i>Libellula quadrimaculata asahinai</i>	●			●														○				止	
	シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	止	
	シオヤトンボ	<i>Orthetrum japonicum japonicum</i>				●				●	○		●	●	●	○								止	
	オオシオカラトンボ	<i>Orthetrum melania</i>		●	●	●	●					●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	止	
	ハッチョウトンボ	<i>Nannophya pygmaea</i>																		○				止	
	コフキトンボ	<i>Deitlia phaon</i>																					○	止	
	ショウジョウトンボ	<i>Crocothemis servilia mariannae</i>	●	●	●	●	●	●	●	●							●	○	○	○				止	
	ミヤマアカネ	<i>Sympetrum pedemontanum elatum</i>	●		●	●	●		●				●											流	
	ナツアカネ	<i>Sympetrum darwinianum</i>				●	●	●	●	●			●						○			●		止	
	アキアカネ	<i>Sympetrum frequens</i>				●	●	●	●	●	●		●				●		○	○	●	●		止	
	マユタテアカネ	<i>Sympetrum eroticum eroticum</i>	●		●	●	●	●	●	●			●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	止	
	ヒメアカネ	<i>Sympetrum parvulum</i>	●																	○			●	止	
	リスアカネ	<i>Sympetrum risi risi</i>																					●	止	
	ノシメトンボ	<i>Sympetrum infuscatum</i>				●				●														止	
	コノシメトンボ	<i>Sympetrum baccha matutinum</i>																						止	
	ネキトンボ	<i>Sympetrum speciosum speciosum</i>									○												●	止	
	コシアキトンボ	<i>Pseudothemis zonata</i>	●		●					○				●		●	○	○	○	○	○	○	○	止	
	チョウトンボ	<i>Rhyothemis fuliginosa</i>																						止	
	ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i>	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	止	
	合計種数			22	21	23	35	22	22	16	23	7	14	23	17	13	37	33	30	30	32	6	6		

○：2000年以前のみ確認 ●：2001年以降に確認

4. [旧旭町] 下切町

小渡町串毛の対岸に当たり、長径 20 m 以上の大きな池を含めた様々なタイプの池が多数点在していることから多くの止水性種が見られる。その結果として全調査地で 2 番目に多い 35 種を確認できた。

河川敷に降りてすぐの場所に木々に囲まれた小池があり、ヤブヤンマとタカネトンボの幼虫が確認できる。両種は閉鎖的な小池に生息することが多いので、河川敷で得られることは珍しい。

最も大きな池からはマルタンヤンマやヨツボシトンボ、キイトンボ等他の産地でも稀な種が記録されていたが、2007 年後半になると池の水位が下がり、2008 年にはそれらの多くが確認できなくなった。2008 年 5 月 31 日に現地を訪れた際、偶然出会った地元の方から、自分がこの池の堤を切って水位を下げたと伺った。鮎釣りの準備にいられた方で、何の意図で池の水位を下げたのかは不明である。

2008 年 5 月 31 日の調査ではヨシ原の中にある別の小池からキイロヤマトンボとミヤマサナエの終齢幼虫が得られた。両者とも幼虫期に 2 年以上かかり、それ以前の調査では同池で確認できていなかったことから、増水時に同池に入り込んだものと推測された。

10- XII -2006 幼虫：モノサシトンボ、クロイトトンボ、ヤブヤンマ、クロスジギンヤンマ、ダビドサナエ、コヤマトンボ、タカネトンボ、シオカラトンボ

4 I -2007 幼虫：ヤブヤンマ、ホンサナエ、ダビドサナエ、キイロヤマトンボ、コヤマトンボ、タカネトンボ、シオカラトンボ

17- III -2007 幼虫：モノサシトンボ、クロイトトンボ、ヤブヤンマ、クロスジギンヤンマ、ホンサナエ、ヤマサナエ、ダビドサナエ、アオサナエ、コオニヤンマ、オニヤンマ、タカネトンボ、オオシオカラトンボ、ショウジョウトンボ

1- IV -2007 幼虫：モノサシトンボ、クロイトトンボ、ヤブヤンマ、ホンサナエ、ダビドサナエ、オジロサナエ、アオサナエ、オナガサナエ、オニヤンマ、キイロヤマトンボ、タカネトンボ

21- IV -2007 成虫：アジアイトトンボ；幼虫：モノサシトンボ、アジアイトトンボ、クロイトトンボ、マルタンヤンマ、ギンヤンマ、クロスジギンヤンマ、ホンサナエ、ダビドサナエ、キイロヤマトンボ、コヤマトンボ、ヨツボシトンボ、シオカラトンボ

12- V -2007 成虫：カワトンボ、オオカワトンボ、クロスジギンヤンマ、ヨツボシトンボ、シオカラトンボ、シオヤトンボ；幼虫：モノサシトンボ、クロイトトンボ、マルタンヤンマ、シオカラトンボ、ショウジョウトンボ

27- V -2007 成虫：ホソミオツネントンボ、モノサシ

トンボ、クロイトトンボ、クロスジギンヤンマ、ホンサナエ、コヤマトンボ、ハラビロトンボ、シオカラトンボ；幼虫：モノサシトンボ、キイトンボ、クロイトトンボ、マルタンヤンマ（吉田、2008a・2008c）、ギンヤンマ、ミヤマサナエ、ホンサナエ、アオサナエ、オナガサナエ

17- VI -2007 成虫：オオアオイトトンボ、モノサシトンボ、クロイトトンボ、ハラビロトンボ、オオシオカラトンボ、ショウジョウトンボ；幼虫：オオアオイトトンボ、モノサシトンボ、クロイトトンボ、シオカラトンボ、ショウジョウトンボ、アキアカネ

1- VII -2007 成虫：ハグロトンボ、モノサシトンボ、ミヤマサナエ、ホンサナエ、ダビドサナエ、コヤマトンボ、シオカラトンボ、ミヤマアカネ、マユタテアカネ；幼虫：ハグロトンボ、クロスジギンヤンマ、アオサナエ、オナガサナエ、コヤマトンボ、タカネトンボ、アキアカネ、マユタテアカネ

7- VIII -2007 成虫：ハグロトンボ、オオアオイトトンボ、モノサシトンボ、クロイトトンボ、ハラビロトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ウスバキトンボ

27- I -2008 幼虫：モノサシトンボ、アジアイトトンボ、クロイトトンボ、ギンヤンマ、ホンサナエ、ダビドサナエ、コオニヤンマ、コヤマトンボ、シオカラトンボ、ショウジョウトンボ

31- V -2008 成虫：アオハダトンボ、オオカワトンボ、モノサシトンボ、アジアイトトンボ；幼虫：ハグロトンボ、モノサシトンボ、アジアイトトンボ、クロイトトンボ、クロスジギンヤンマ、ミヤマサナエ、ヤマサナエ、アオサナエ、コオニヤンマ、キイロヤマトンボ、コヤマトンボ、シオカラトンボ、ショウジョウトンボ、アキアカネ、マユタテアカネ；羽化殻：クロスジギンヤンマ

5. [旧旭町] 島崎町・小渡町小柳

本流の河床には砂礫が多く、砂泥部が少ないので流水性種の個体密度はそれほど高くない。右岸の島崎町側には河川敷の岩盤上に水たまりが複数存在し、少数ながら止水性種の幼虫が確認できた。

10- VII -2006 成虫：シオカラトンボ、ウスバキトンボ

16- VIII -2006 成虫：ハグロトンボ 1 ♀（間野隆裕 leg）

10- IX -2006 成虫：ハグロトンボ、マユタテアカネ、ウスバキトンボ；幼虫：ダビドサナエ、アオサナエ、オニヤンマ、コヤマトンボ

24- IX -2006 成虫：ホソミイトトンボ、クロイトトンボ、オナガサナエ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ミヤマアカネ、ナツアカネ、アキアカネ、マユタテアカネ、ノシメトンボ、ウスバキトンボ；幼虫：モノサシトンボ、ヤブヤンマ、ホンサナエ、ヤマサナエ、ダビドサナエ、アオサナエ、コヤマトンボ、シオカラトンボ

10- X -2006 成虫：オオアオイトトンボ1♀（西村雄貴 leg）

10- XII -2006 幼虫：ハグロトンボ，コシボソヤンマ（吉田，2007），ホンサナエ，ダビドサナエ，コヤマトンボ，シオカラトンボ，ショウジョウトンボ

6. [旧小原村] 樽俣町

本流には緩やかな淵が存在し，岸辺に砂泥部が多いので比較的多くの流水性種が見られる一方，ほとんど止水域は存在しないので，止水性種は多くない。

マユタテアカネの赤化型♀は愛知県下では多く見られないが，2007年9月22日には赤化型♀（無斑）を1頭確認している。

10- VII -2006 成虫：ハグロトンボ，モノサシトンボ，オナガサナエ，コヤマトンボ，シオカラトンボ，ショウジョウトンボ，ウスバキトンボ；幼虫：アオサナエ，コオニヤンマ，オニヤンマ，キイロヤマトンボ，コヤマトンボ

13- VIII -2006 成虫：オニヤンマ，ウスバキトンボ

16- VIII -2006 成虫：ハグロトンボ，モノサシトンボ，シオカラトンボ，ウスバキトンボ；幼虫：ダビドサナエ，アオサナエ，コオニヤンマ，キイロヤマトンボ，コヤマトンボ

16- VIII -2006 成虫：モノサシトンボ1♀，マユタテアカネ1♂1♀（間野隆裕 leg）

21- X -2006 成虫：オオアオイトトンボ，ナツアカネ，アキアカネ，マユタテアカネ；幼虫：ハグロトンボ，モノサシトンボ，クロイトトンボ，ホンサナエ，ダビドサナエ，アオサナエ，コヤマトンボ

12- V -2007 成虫：オオカワトンボ，シオカラトンボ

24- VIII -2007 成虫：ハグロトンボ，ウスバキトンボ；幼虫：カワトンボ，ミルンヤンマ，オジロサナエ

9- IX -2007 成虫：ハグロトンボ，オニヤンマ，コヤマトンボ，シオカラトンボ，ウスバキトンボ；幼虫：ダビドサナエ，オジロサナエ，オナガサナエ，コヤマトンボ

22- IX -2007 成虫：ハグロトンボ，シオカラトンボ，マユタテアカネ；幼虫：オオカワトンボ，モノサシトンボ，ダビドサナエ，コヤマトンボ

7. [旧旭町] 有間町

2000年には有平橋の左岸上流側の河川敷に小池が存在し，そこで多数の止水性種を確認できた。特にネキトンボはこの付近では少し山手に入れば確認できる種であるが，矢作川本流で，幼虫が確認されているのはこの場所だけである。しかしその後の出水によって地形が変わり，小池は消滅してしまった。

この調査地で特筆すべき事としてミヤマカワトンボの記録がある。2006年以降の矢作川河畔林調査において，矢作第二ダム下流域では同種は全く確認できていない。しかし，2000年に同種を本流で確認しているのは重要な事実と考えられる。

13- VI -2000 成虫：アオハダトンボ，ミヤマカワトンボ，モノサシトンボ（吉田・成田，2001），クロイトトンボ（吉田・成田，2001；吉田，2001），クロスジギンヤンマ，オジロサナエ，コシアキトンボ（吉田・成田，2001）；幼虫：オオアオイトトンボ（吉田・成田，2001），モノサシトンボ，クロイトトンボ，ヤブヤンマ，クロスジギンヤンマ，ミヤマサナエ，アオサナエ，コヤマトンボ，マユタテアカネ，ネキトンボ（吉田，2001）

21- X -2006 成虫：ナツアカネ，アキアカネ，マユタテアカネ

8. [旧小原村] 平畑町

集落の上手となる有平橋付近の本流は変化に富んだ河床となっており，多くの流水性種を確認できる。集落の下手の右岸には岩盤上に水が溜まっており，止水性種を確認できるが，干上がることもあるようなので，それほど種数は多くなかった。

24- IX -2006 成虫：ハグロトンボ，ミヤマアカネ，ナツアカネ，アキアカネ，マユタテアカネ，ノシメトンボ，ウスバキトンボ；幼虫：ホンサナエ，ダビドサナエ，アオサナエ，オニヤンマ

12- V -2007 成虫：オオカワトンボ，シオカラトンボ，シオヤトンボ；幼虫：ハグロトンボ，コシボソヤンマ，ミヤマサナエ，シオカラトンボ；羽化殻：アオサナエ

9- IX -2007 成虫：ハグロトンボ，シオカラトンボ，オオシオカラトンボ，ウスバキトンボ；幼虫：ホンサナエ，ヤマサナエ，ダビドサナエ，オナガサナエ，キイロヤマトンボ，コヤマトンボ

22- IX -2007 成虫：アジアイトトンボ（吉田，2008c），オナガサナエ，シオカラトンボ，マユタテアカネ，ウスバキトンボ；幼虫：キイロヤマトンボ，コヤマトンボ，シオカラトンボ，ショウジョウトンボ

9. [旧旭町] 笹戸町

笹戸橋下流の調査記録であるが，種数は少ない。比較的多様な水環境があるので，詳細に調べれば種数はかなり増加すると推測される。

7- VI -2000 成虫：アオハダトンボ，ハグロトンボ，アオサナエ，シオカラトンボ，シオヤトンボ；幼虫：ハグロトンボ，ミヤマサナエ，キイロヤマトンボ（吉田・成田，2001）

10. [旧小原村] 篠平町

笹戸橋下流の調査記録で笹戸町とは対岸になる。この場所も笹戸町と同様、詳細に調べれば種数は増加すると推測される。

7- VI -2000 成虫：アオハダトンボ、モノサシトンボ、クロイトトンボ、クロスジギンヤンマ、アオサナエ、コヤマトンボ、シオカラトンボ；幼虫：ハグロトンボ（吉田・成田，2001）、ミヤマサナエ、ダビドサナエ、キイロヤマトンボ（吉田・成田，2001）

12- V -2007 成虫：オオカワトンボ；幼虫：ミルンヤンマ、コオニヤンマ、オニヤンマ、コヤマトンボ

11. [旧旭町] 市平町

百月ダム下流の河床は変化に富んでおり、比較的多くの流水性種が得られる。また小河川が流入しており、ヒメクロサナエ幼虫が採集された。同種の成虫は源流～上流域で活動するが、幼虫は時に流下して中流域で得られることもある。今回の調査では2ヶ所で幼虫が確認されているが、やはり稀である。

小河川は河川敷で小さなワンド状になっているが、水温が低く、若干流れもあることから、止水性種はあまり見られない。

なお下記データには一部池島町のエリアで確認したものも含まれる。

19- VIII -2006 成虫：ハグロトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ウスバキトンボ；幼虫：ホンサナエ、ダビドサナエ、アオサナエ、オナガサナエ、キイロヤマトンボ、コヤマトンボ

10- IX -2006 成虫：オナガサナエ、オニヤンマ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ミヤマアカネ、マユタテアカネ、ウスバキトンボ；幼虫：カワトンボ、ヒメクロサナエ、ハラビロトンボ

21- X -2006 成虫：ナツアカネ、アキアカネ、マユタテアカネ、ウスバキトンボ；幼虫：クロイトトンボ、ギンヤンマ、ヤマサナエ、オジロサナエ、アオサナエ、オオシオカラトンボ

4- I -2007 幼虫：ハグロトンボ、ホンサナエ、ダビドサナエ、コオニヤンマ、キイロヤマトンボ、コヤマトンボ

12. [旧旭町] 池島町

池島町の集落下手の矢作川は溪谷状の地形となっているが、その斜面の一角に複数の小池が現存している。道路から見ると、とても池など存在しそうな場所に池を発見した時は不思議な感じであった。ここには今回の全調査地の中で最も深い（水深1m超）池がある。枯れる心配が無い事もあってか、幼虫期に複数年を要すタベ

サナエやルリボシヤンマ、オオルリボシヤンマの幼虫を確認できた。

4- V -2007 成虫：シオヤトンボ；幼虫：モノサシトンボ、クロイトトンボ、ルリボシヤンマ、クロスジギンヤンマ、タベサナエ（吉田，2008c）、コヤマトンボ、シオカラトンボ

27- V -2007 成虫：オオカワトンボ；幼虫：モノサシトンボ、クロイトトンボ、ルリボシヤンマ、コシアキトンボ

29- VIII -2007 成虫：モノサシトンボ、オナガサナエ、オニヤンマ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、マユタテアカネ、ウスバキトンボ；幼虫：タベサナエ、シオカラトンボ

31- V -2008 成虫：モノサシトンボ；幼虫：モノサシトンボ、クロイトトンボ、オオルリボシヤンマ、マルタヤンマ

13. [旧小原村] 百月町

上百月の集落の沖の河床は対岸に比べてやや単調なため、流水性種をそれほど多く確認できなかった。止水性のオオルリボシヤンマは早朝に本流上空を摂食飛翔しているのを目撃した例である。

10- VII -2006 成虫：アオハダトンボ、オナガサナエ、ウスバキトンボ

13- VIII -2006 成虫：ハグロトンボ、オオルリボシヤンマ、オニヤンマ、ミヤマアカネ、ウスバキトンボ；幼虫：ハグロトンボ、アオサナエ、コオニヤンマ、キイロヤマトンボ、コヤマトンボ

16- VIII -2006 成虫：ハグロトンボ1♀（間野隆裕 leg）

8- X -2006 成虫：オオアオイトトンボ1♀（西村雄貴 leg）

27- V -2007 成虫：ホンサナエ、シオヤトンボ；幼虫：コシボソヤンマ

14. [旧足助町] 月原町（百月発電所の南東対岸）

全調査地で最高の37種を記録できた。本流は変化に富んだ河床となっているため、非常に多くの流水性種を確認できた。また河畔林内に複数の小池や小湿地があり、そこで様々な止水性種を確認できた。

池の一つに長径10mほどで幅3、4mと細長く、それほど大きくないものがある。ここではオオヤマトンボの幼虫を2007、2008年と続けて確認している。本来オオヤマトンボは幅数10m以上の大きな開放的な池沼を好むのだが、周辺に大きな止水域の乏しい足助町周辺では、このような小池を産卵場所として選定せざるをえなかったものと推測される。

この小池は通常は本流よりも2mほど高い位置にある

のだが、時には冠水することもあるようで、出水後にはキイロヤマトンボやコヤマトンボやコオニヤンマ、アオサナエ等の流水性種の幼虫を確認できることも多い。しかし、次に訪れると流水性種の個体数および種数が減少している例が多く、止水域ではあまり長生きできない個体が多いと考えられる。

16- VIII -2006 成虫：ハグロトンボ，ウスバキトンボ；幼虫：ダビドサナエ，キイロヤマトンボ

15- X -2006 成虫：オオアオイトトンボ1♂2♀，ミルンヤンマ，アキアカネ，マユタテアカネ；幼虫：ハグロトンボ，オオカワトンボ，モノサシトンボ，クロイトトンボ，コシボソヤンマ，ヤブヤンマ，マルタンヤンマ，ギンヤンマ，クロスジギンヤンマ，ホンサナエ，ヤマサナエ，ダビドサナエ，オジロサナエ，アオサナエ，オナガサナエ，コオニヤンマ，オニヤンマ，キイロヤマトンボ，コヤマトンボ，タカネトンボ，シオカラトンボ，オオシオカラトンボ，ショウジョウトンボ

25- XI -2006 幼虫：ハグロトンボ，モノサシトンボ，クロイトトンボ，クロスジギンヤンマ，ホンサナエ，ヤマサナエ，ダビドサナエ，アオサナエ，コヤマトンボ，オオシオカラトンボ

10- III -2007 幼虫：モノサシトンボ，クロイトトンボ，ミルンヤンマ，ルリボシヤンマ，クロスジギンヤンマ，ホンサナエ，ヤマサナエ，ダビドサナエ，タバサナエ（吉田，2008c），オニヤンマ，シオカラトンボ，コヤマトンボ

21- IV -2007 幼虫：クロイトトンボ，ホンサナエ，ダビドサナエ，キイロヤマトンボ

29- IV -2007 成虫：ホソミイトトンボ，クロスジギンヤンマ，シオヤトンボ；幼虫：モノサシトンボ，クロイトトンボ，クロスジギンヤンマ，ヤマサナエ，オジロサナエ，アオサナエ，コオニヤンマ，オオヤマトンボ（吉田，2008a），コシアキトンボ

7- VIII -2007 成虫：ハグロトンボ，オオアオイトトンボ，モノサシトンボ，クロイトトンボ，オニヤンマ，シオカラトンボ，オオシオカラトンボ，コシアキトンボ，ウスバキトンボ

12- VIII -2007 成虫：ハグロトンボ，ハラビロトンボ，シオカラトンボ，オオシオカラトンボ，コシアキトンボ，ウスバキトンボ；幼虫：アオサナエ，ダビドサナエ，キイロヤマトンボ（吉田，2008b）

9- IX -2007 成虫：ハグロトンボ，ミヤマサナエ，オニヤンマ，シオカラトンボ，マユタテアカネ，ウスバキトンボ；幼虫：ミルンヤンマ，クロスジギンヤンマ，ホンサナエ，ダビドサナエ，ヒメクロサナエ，オジロサナエ，アオサナエ，オナガサナエ，コオニヤンマ，オオヤマトンボ（吉田，2008b），キイロヤマトンボ（吉田，2008b），

コヤマトンボ（吉田，2008b），シオカラトンボ，ショウジョウトンボ，ウスバキトンボ

3- XI -2007 成虫：アキアカネ，オオアオイトトンボ；幼虫：ハグロトンボ，ミヤマサナエ，ダビドサナエ，オジロサナエ，コオニヤンマ，キイロヤマトンボ，コヤマトンボ

27- I -2008 幼虫：ハグロトンボ，ダビドサナエ，ヤマサナエ，アオサナエ，オナガサナエ，キイロヤマトンボ，コヤマトンボ

13- VIII -2008 成虫：ハグロトンボ，クロイトトンボ，シオカラトンボ，コシアキトンボ，ウスバキトンボ；幼虫：クロイトトンボ，クロスジギンヤンマ，ミヤマサナエ，ヤマサナエ，ダビドサナエ，オジロサナエ，オオヤマトンボ，キイロヤマトンボ，コヤマトンボ

15. [旧足助町] 月原町（阿摺川河口域）

1984年の発見以来，キイロヤマトンボの産地として有名なポイントである。1980年代には阿摺川最下流部付近はまだ護岸されておらず，また周辺の水田等の環境もトンボの生息には好適だったため，流水および止水性種とも多数が記録されている。

ただし阿摺川河口付近は非常に砂が多く，河床が不安定なため，幼虫の個体密度は非常に低い。したがって成虫が見られる割に幼虫が少ない点が本調査地の特徴となっている。

止水性のキイトンボは水田等の縁で発生したものを確認した例である。チョウトンボは河川や水田上空を飛翔していたものを目撃した例であるが，発生地は不明である。鶴殿（2008）は「吉田がチョウトンボを摺小川の河口付近にあった池で記録」と記述しているが，これは筆者が記憶違いで鶴殿氏に伝えたためなので，訂正しておきたい。

その後川自体の護岸や，水田等の水環境の悪化により21世紀に入ってから調査では以前の豊かなトンボ相は消え失せていた。

19- VII -1984 成虫：アオハダトンボ，ミヤマサナエ4♂，コオニヤンマ1♂1♀，オニヤンマ1♀，キイロヤマトンボ9♂，コヤマトンボ1♂，コシアキトンボ（吉田ほか，2000）

5- V -1985 成虫：カワトンボ1♂，オオカワトンボ2♂2♀，シオヤトンボ

26- V -1985 成虫：アオハダトンボ2♂2♀，ホソミオツネイトンボ，ホソミイトトンボ1♀，ホンサナエ1♀，ヤマサナエ，アオサナエ，シオヤトンボ；幼虫：オニヤンマ

1- VI -1985 成虫：アオハダトンボ，カワトンボ1♂，オオカワトンボ，ホンサナエ1♂，ヤマサナエ1♂，ア

オサナエ, シオヤトンボ

9- VI -1985 成虫: アオハダトンボ, オオカワトンボ, アオサナエ, コヤマトンボ1♂, シオカラトンボ

16- VI -1985 成虫: アオハダトンボ1♂1♀, オオカワトンボ1♂1♀, ホンサナエ1♂, ヤマサナエ, アオサナエ1♀, ハラビロトンボ, シオカラトンボ

6- VII -1985 成虫: アオハダトンボ, キイトトンボ1♂, シオカラトンボ

14- VII -1985 成虫: アオハダトンボ1♂, カワトンボ1♂, ホソミイトトンボ, ミヤマサナエ, アオサナエ1♀, コオニヤンマ, オニヤンマ4♂, キイロヤマトンボ2♂, コヤマトンボ1♂, シオカラトンボ, オオシオカラトンボ1♂, コシアキトンボ2♂, チョウトンボ (吉田ほか, 2000), ウスバキトンボ

23- VII -1985 成虫: アオハダトンボ1♂1♀, ハグロトンボ1♂, ミヤマサナエ1♀, オニヤンマ, キイロヤマトンボ, オオシオカラトンボ2♂, コシアキトンボ

1- IX -1995 成虫: ハグロトンボ, オニヤンマ, オオヤマトンボ, キイロヤマトンボ1♀ (吉田, 1992), シオカラトンボ, ヒメアカネ1♂, コシアキトンボ, ウスバキトンボ1♂1♀

19- VII -1986 成虫: アオハダトンボ, ミヤマサナエ1♂1♀, コオニヤンマ, オニヤンマ, コヤマトンボ

3- VIII -1986 成虫: アオハダトンボ, ハグロトンボ, ホソミイトトンボ, ミヤマサナエ, オナガサナエ1♂, オニヤンマ, キイロヤマトンボ1♂, シオカラトンボ, ショウジョウトンボ, コシアキトンボ

1- VIII -1987 成虫: アオハダトンボ, ハグロトンボ, モノサシトンボ, クロイトトンボ, オナガサナエ1♂, オニヤンマ, キイロヤマトンボ2♂, コヤマトンボ1♂, シオカラトンボ, オオシオカラトンボ, ショウジョウトンボ, マユタテアカネ, コシアキトンボ, ウスバキトンボ

6- IX -1987 成虫: ハグロトンボ, ミヤマサナエ1♂, オナガサナエ1♂, コオニヤンマ3♂, オニヤンマ1♂, シオカラトンボ, コシアキトンボ, ウスバキトンボ

9- VII -1988 成虫: アオハダトンボ, ホソミオツネトンボ, アオサナエ1♀, コオニヤンマ1♂, オニヤンマ, キイロヤマトンボ1♀, コヤマトンボ8♂2♀, ハラビロトンボ1♀, シオカラトンボ, オオシオカラトンボ, コシアキトンボ

9- VIII -1988 成虫: アオハダトンボ, ハグロトンボ, アジイトトンボ, ミヤマサナエ, コオニヤンマ, オニヤンマ, キイロヤマトンボ, シオカラトンボ, オオシオカラトンボ, コシアキトンボ

11- VIII -1990 成虫: ハグロトンボ, オニヤンマ, シオカラトンボ, オオシオカラトンボ, コシアキトンボ, ウ

スバキトンボ

26- VII -1991 成虫: アオハダトンボ1♂1♀, ハグロトンボ, ホソミオツネトンボ, オナガサナエ1♂, オニヤンマ, キイロヤマトンボ, ハラビロトンボ, シオカラトンボ, オオシオカラトンボ, コシアキトンボ, ウスバキトンボ

6- IX -1992 成虫: ハグロトンボ, ミヤマサナエ, オニヤンマ, ギンヤンマ, キイロヤマトンボ (吉田, 1992), シオカラトンボ, ナツアカネ, コシアキトンボ, ウスバキトンボ

25- VII -1993 成虫: アオハダトンボ, コオニヤンマ, オニヤンマ, キイロヤマトンボ1♂, オオシオカラトンボ, コシアキトンボ, ウスバキトンボ

13- VIII -2006 成虫: ハグロトンボ, ミヤマサナエ2♂1♀, オニヤンマ, キイロヤマトンボ, オオシオカラトンボ, ウスバキトンボ; 幼虫: オオカワトンボ

10- IX -2006 成虫: ハグロトンボ, ミヤマサナエ, オニヤンマ, シオカラトンボ, マユタテアカネ, コシアキトンボ, ウスバキトンボ; 幼虫: コシボソヤンマ, ヤマサナエ, ダビドサナエ

4- V -2007 成虫: オオカワトンボ, ホソミオツネトンボ, ホソミイトトンボ, シオヤトンボ; 幼虫: コオニヤンマ, コヤマトンボ

19- VII -2007 成虫: ハグロトンボ, ミヤマサナエ, ウスバキトンボ; 幼虫: ハグロトンボ, ダビドサナエ

12- VIII -2007 成虫: ハグロトンボ, キイロヤマトンボ, シオカラトンボ, オオシオカラトンボ; 幼虫: オオシオカラトンボ; 羽化殻: オナガサナエ

16. [旧足助町] 月原町 (摺小川河口域)

阿摺川と同じく1984年にキイロヤマトンボの産地として発見されたポイントである。摺小川の河口域は現在も幅30m以上と広いが、発見当時は河床に変化があり、しかも湿地や小池といった止水環境もあり、多くのトンボが見られた。

本報告でここでしか記録のないオオイトトンボやウチワヤンマ、ハッチョウトンボはそれら湿地や小池で採集されており、また近くで発生したと思われるムカシヤンマも確認されていることは、摺小川の河口域が豊かな止水環境を有した証拠と言えよう。

しかし1980年代終わりに河口域の砂を採取するための船が入ると事情は一変した。複数年に渡って砂を大量に採取した結果、河床は単調に、そして水深は深くなり、湿地や小池は消失した。当然のことながら、そこに生息していたトンボも絶滅してしまい、2007年の調査ではいわゆる普通種と言われるトンボしか確認することはできなかった。

19- VII -1984 成虫：アオハダトンボ1♂1♀, モノサシトンボ1♂, ミヤマサナエ3♂, コオニヤンマ, オニヤンマ1♀, キイロヤマトンボ, ハラビロトンボ, ショウジョウトンボ, コシアキトンボ

26- V -1985 成虫：アオハダトンボ1♂1♀, オオカワトンボ3♂2♀, ホソミオツネントンボ1♂1♀, ホソミイトトンボ1♂1♀, ムカシヤンマ1♂, クロスジギンヤンマ, アオサナエ, ハラビロトンボ2♂, シオカラトンボ1♂, シオヤトンボ

9- VI -1985 成虫：アオハダトンボ, オオカワトンボ, ホソミオツネントンボ, ヤマサナエ, アオサナエ1♂, キイロヤマトンボ1♂, コヤマトンボ, ハラビロトンボ, シオカラトンボ

16- VI -1985 成虫：アオハダトンボ1♂1♀, オオカワトンボ1♂1♀, ホソミオツネントンボ, モノサシトンボ, クロスジギンヤンマ1♂, ヤマサナエ, アオサナエ, コヤマトンボ, ハラビロトンボ1♂, ヨツボシトンボ1♂, シオカラトンボ, オオシオカラトンボ

6- VII -1985 成虫：アオハダトンボ, モノサシトンボ1♂, ウチワヤンマ1♀ (吉田ほか, 2000), タカネトンボ, シオカラトンボ1♂, マユタテアカネ

14- VII -1985 成虫：アオハダトンボ, アオサナエ, キイロヤマトンボ, シオカラトンボ1♂

23- VII -1985 成虫：アオハダトンボ, コオニヤンマ, オニヤンマ, シオカラトンボ

19- VII -1986 成虫：アオハダトンボ, ホソミオツネントンボ, モノサシトンボ, ホソミイトトンボ2♂1♀, アジアイトトンボ, オニヤンマ, キイロヤマトンボ, ハラビロトンボ, シオカラトンボ, ショウジョウトンボ, アキアカネ, コシアキトンボ

27- VII -1986 成虫：アオハダトンボ, ホソミオツネントンボ, ホソミイトトンボ, アジアイトトンボ, オオイトトンボ, キイロヤマトンボ1♀, ハラビロトンボ, シオカラトンボ, アキアカネ, コシアキトンボ

3- VIII -1986 成虫：アオハダトンボ, モノサシトンボ, ホソミイトトンボ, アジアイトトンボ, オオイトトンボ1♂, オニヤンマ, ハラビロトンボ, シオカラトンボ, ハッチョウトンボ1♂, アキアカネ, マユタテアカネ

16- VIII -2006 成虫：ハグロトンボ, シオカラトンボ, コシアキトンボ, ウスバキトンボ

17. 西広瀬町 (飯野川河口域)

規模が大きく、豊かなトンボ相を有す飯野川が合流しているため、飯野川河口域では流水性種の個体密度が非常に高い。またそれら流水性種に混じって、本来は池沼や湿地等の緩やかな流れに生息するタバサナエの幼虫も時折得られ、1993年には成虫も確認されている。

周辺の水田からは本報告で唯一となるカトリヤンマの羽化直後の個体を1頭確認している。

10- VII -1988 成虫：アオハダトンボ (吉田ほか, 2000), ハグロトンボ, モノサシトンボ, アオサナエ1♀ (吉田ほか, 2000), オニヤンマ, オオヤマトンボ1♀, キイロヤマトンボ, コヤマトンボ, ハラビロトンボ, シオカラトンボ, オオシオカラトンボ1♂, コフキトンボ, ショウジョウトンボ1♀, アキアカネ

4- VII -1992 成虫：アオハダトンボ1♂1♀, キイロヤマトンボ1♂, コヤマトンボ, シオカラトンボ, オオシオカラトンボ

15- V -1993 成虫：タバサナエ, シオカラトンボ; 幼虫：ヤマサナエ, アオサナエ, コオニヤンマ, キイロヤマトンボ, コヤマトンボ, シオカラトンボ

10- VII -2006 成虫：アオハダトンボ, ハグロトンボ, オナガサナエ, コヤマトンボ, ウスバキトンボ; 幼虫：ハグロトンボ, ヤマサナエ, アオサナエ, コオニヤンマ, キイロヤマトンボ, コヤマトンボ

16- VII -2006 成虫：ハグロトンボ, キイロヤマトンボ, シオカラトンボ, ウスバキトンボ; 幼虫：キイロヤマトンボ, コヤマトンボ

14- VIII -2006 成虫：ハグロトンボ2♀ (間野隆裕 leg)

2- IX -2006 成虫：ハグロトンボ, ギンヤンマ, オニヤンマ, ミヤマサナエ, シオカラトンボ, ウスバキトンボ; 幼虫：ハグロトンボ, オオカワトンボ, コシボソヤンマ, ミルンヤンマ, ヤマサナエ, アオサナエ, オナガサナエ, コオニヤンマ, キイロヤマトンボ, コヤマトンボ

24- IX -2006 成虫：ミヤマサナエ1♂, オナガサナエ, コオニヤンマ, オニヤンマ1♂, アキアカネ, ウスバキトンボ

15- X -2006 成虫：オオアオイトトンボ, アキアカネ, マユタテアカネ

10- III -2007 幼虫：ホンサナエ, ヤマサナエ, ダビドサナエ, キイロヤマトンボ, コヤマトンボ

19- VII -2007 成虫：ハグロトンボ, ウスバキトンボ; 幼虫：ハグロトンボ, オオカワトンボ, コシボソヤンマ, ヤマサナエ, アオサナエ, オナガサナエ, コオニヤンマ, オニヤンマ, シオカラトンボ

12- IV -2008 幼虫：アオハダトンボ, ミヤマサナエ, ヤマサナエ, ダビドサナエ, タバサナエ, オジロサナエ, アオサナエ, オナガサナエ, コオニヤンマ, オニヤンマ

18. 東広瀬町

通称「大曲り」の末端付近は砂泥が溜まりやすく、特に砂泥底を好むキイロヤマトンボは多く、1回の調査で117頭の幼虫を確認したこともある。大きな出水があると岸辺の地形が一変し、一時的に幼虫の個体密度が低下

することがあるが、その後岸辺の河床が安定してくると、
個体密度は増加に転じるのを確認している。

河川敷周辺には水田や休耕田が多く、そこで発生した
種に加え、他から休息等のために飛来した種が多く確認
できた。特にアオイトトンボやリスアカネ、コノシメト
ンボは本調査地でのみ確認された。

10- VII -2006 成虫：ハグロトンボ、コシアキトンボ、
ウスバキトンボ

14- VIII -2006 成虫：ハグロトンボ1♂（間野隆裕 leg）

2- IX -2006 成虫：ハグロトンボ、ギンヤンマ、オニ
ヤンマ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、マユタ
テアカネ、ウスバキトンボ

24- IX -2006 成虫：アオイトトンボ、シオカラトンボ、
オオシオカラトンボ、ナツアカネ、アキアカネ、リスア
カネ、ノシメトンボ、コノシメトンボ、ウスバキトンボ

15- X -2006 成虫：アキアカネ、マユタテアカネ、リ
スアカネ、ノシメトンボ、ウスバキトンボ；幼虫：ハグ
ロトンボ、コシボソヤンマ、ミヤマサナエ、ホンサナエ、
ヤマサナエ、ダビドサナエ、オニヤンマ、キイロヤマト
ンボ、コヤマトンボ

21- X -2006 成虫：ハグロトンボ、ナツアカネ、アキ
アカネ、マユタテアカネ、リスアカネ；幼虫：ハグロト
ンボ、オオカワトンボ、ホンサナエ、ダビドサナエ、コ
オニヤンマ、キイロヤマトンボ、コヤマトンボ

12- XI -2006 成虫：アキアカネ、ヒメアカネ

25- XI -2006 成虫：マユタテアカネ；幼虫：アオハダ
トンボ、ハグロトンボ、ホンサナエ、ヤマサナエ、ダビ
ドサナエ、アオサナエ、コオニヤンマ、キイロヤマトンボ、
コヤマトンボ

10- III -2007 幼虫：ハグロトンボ、ホンサナエ、ヤマ
サナエ、ダビドサナエ、キイロヤマトンボ、コヤマトン
ボ

21- IV -2007 幼虫：コシボソヤンマ、ミヤマサナエ、
ホンサナエ、ヤマサナエ、ダビドサナエ、アオサナエ、
キイロヤマトンボ、コヤマトンボ

12- V -2007 成虫：オオカワトンボ、ホンサナエ；幼虫：
ハグロトンボ、ミヤマサナエ、ホンサナエ、アオサナエ、
コオニヤンマ、キイロヤマトンボ、コヤマトンボ、シオ
カラトンボ

27- V -2007 成虫：ホンサナエ、幼虫：ハグロトン
ボ、ミヤマサナエ、ホンサナエ、ヤマサナエ、アオサナ
エ、コオニヤンマ、オオヤマトンボ（吉田，2008b）、キ
イロヤマトンボ（吉田，2008b）、コヤマトンボ（吉田，
2008b）、シオカラトンボ

17- VI -2007 幼虫：ハグロトンボ、ミヤマサナエ、ホ
ンサナエ、ヤマサナエ、ダビドサナエ、オジロサナエ、
アオサナエ、コオニヤンマ、キイロヤマトンボ、コヤマ

トンボ

1- VII -2007 幼虫：ハグロトンボ、ヤマサナエ、ダビ
ドサナエ、アオサナエ、コオニヤンマ、オニヤンマ、キ
イロヤマトンボ、コヤマトンボ、マユタテアカネ；羽化殻：
ミヤマサナエ、オナガサナエ

19- VII -2007 成虫：ハグロトンボ、ウスバキトンボ；
幼虫：オオカワトンボ、ヤマサナエ、ダビドサナエ、オ
ジロサナエ、アオサナエ、オナガサナエ、コオニヤンマ、
オニヤンマ、キイロヤマトンボ、コヤマトンボ

29- VIII -2007 成虫：ハグロトンボ、ウスバキトンボ；
幼虫：ヤマサナエ、ホンサナエ、ダビドサナエ、アオサ
ナエ、コオニヤンマ、キイロヤマトンボ、コヤマトンボ

9- IX -2007 成虫：ハグロトンボ、シオカラトンボ；幼虫：
ハグロトンボ、オオカワトンボ、コシボソヤンマ、ホン
サナエ、ヤマサナエ、ダビドサナエ、オジロサナエ、ア
オサナエ、コオニヤンマ、キイロヤマトンボ、コヤマト
ンボ、シオカラトンボ

20- X -2007 成虫：ハグロトンボ、ナツアカネ、ア
キアカネ、マユタテアカネ、リスアカネ、ノシメトンボ、
ネキトンボ；幼虫：ハグロトンボ、オオカワトンボ、マ
ルタンヤンマ、ホンサナエ、ヤマサナエ、アオサナエ、
コオニヤンマ、キイロヤマトンボ、コヤマトンボ、ハラ
ビロトンボ、シオカラトンボ

10- XI -2007 成虫：オオアオイトトンボ、アキアカ
ネ、マユタテアカネ、リスアカネ、ノシメトンボ；幼虫：
ハグロトンボ、ミヤマサナエ、ホンサナエ、ヤマサナエ、
ダビドサナエ、アオサナエ、コオニヤンマ、キイロヤマ
トンボ、コヤマトンボ、ハラビロトンボ、シオカラトン
ボ

2- XII -2007 幼虫：ハグロトンボ、ミヤマサナエ、ホ
ンサナエ、ヤマサナエ、ダビドサナエ、アオサナエ、コ
オニヤンマ、キイロヤマトンボ、コヤマトンボ

27- I -2008 幼虫：ハグロトンボ、ミヤマサナエ、ホ
ンサナエ、ヤマサナエ、ダビドサナエ、キイロヤマトンボ、
コヤマトンボ

18- II -2008 幼虫：ミヤマサナエ、ホンサナエ、ダビ
ドサナエ、キイロヤマトンボ、コヤマトンボ

29- III -2008 幼虫：ハグロトンボ、ミヤマサナエ、ホ
ンサナエ、ヤマサナエ、ダビドサナエ、オジロサナエ、
アオサナエ、キイロヤマトンボ、コヤマトンボ

12- IV -2008 幼虫：アオハダトンボ、ハグロトンボ、
ミヤマサナエ、ホンサナエ、ヤマサナエ、ダビドサナエ、
アオサナエ、キイロヤマトンボ、コヤマトンボ

19. 砂町

豊田市の市街地に近い場所であるが、キイロヤマトン
ボの幼虫を確認できると聞いたので調査をした。しかし

出水の後で岸辺周辺の河床が荒れており、同種の好む環境が見つからず、確認はできなかった。しかし綿密な調査を行えば、多くの知見が得られるはずである。

25-V-2001 成虫：シオカラトンボ；幼虫：ハグロトンボ、ミヤマサナエ、ダビドサナエ、コオニヤンマ、コヤマトンボ；羽化殻：ミヤマサナエ

20. 渡合町（巴川河口域）

1995年当時は容易に多くの流水性種の幼虫を確認できたが、2001年の調査では種数および個体密度とも大幅に減少していた。

6-V-1995 幼虫：ミヤマサナエ、ヤマサナエ、アオサナエ、キイロヤマトンボ、コヤマトンボ、オニヤンマ

11-V-2001 幼虫：ミヤマサナエ、コヤマトンボ

考 察

合併後の豊田市で記録されているトンボ11科84種(吉田, 2007)のうち、10科60種を確認できた。そのうち流水性種が20種、止水性種が40種を占める。矢作川という流水環境が調査地の主体ではあったが、実際は多くの止水性種も矢作川本流周辺において生活していることがわかった。

○全体的な特徴

- ・幼虫を確認できたのは40種以上にのぼる。幼虫期は止水性種の多くが1年、流水性種は2～3年が多いので、幼虫での確認は矢作川本流周辺が安定した生活の場になっているためといえる
- ・流水性種を20種記録できたことは本調査地が愛知県下でも有数のトンボ生息地であることを意味する
- ・流水性種のうち3割は、成熟成虫が調査地ではほとんど、あるいは全く見られない。ダビドサナエやオジロサナエ等が相当するが、それらは源～上流域で産卵し、孵化した幼虫が、本流に流下してくるものであり、羽化後は再び上流域に戻っていく。それらの種にとって調査地は重要な生活の場となっている
- ・流水性種は、上流になるほど個体数および密度が低下する傾向がある。これは上流ほど流速が上がって砂礫底が増える傾向があるのに対し、トンボの多くは緩やかな流れで砂泥底を好む種が多いことによると推測される
- ・止水性種のうち、半分以上の種が河畔林の小池等で幼虫期を過ごし、羽化に至っている。残りの種は周辺で発生したと推測され、それらが河畔林に飛来して休息場所等として利用している。多様な止水環境を含む河畔林の存在が大きいと推測される

○絶滅または減少した種

2000年以前に記録のある種のうち、流水性のミヤマカワトンボ、止水性のオオイトトンボ、ムカシヤンマ、ウチワヤンマ、ハッチョウトンボ、コフキトンボ、チョウトンボは再確認することができなかった。ミヤマカワトンボはきれいな水質を好む傾向が強いので、矢作ダムの下流域には生息できなくなったのかも知れない。止水性種の多くは月原町の湿地と小池に生息または飛来したもののだが、環境破壊により姿を消した。

他の流水性種の多くも減少傾向にある種が多いと推測される。例えば阿摺川のキイロヤマトンボは1984年の発見当初はわずか1時間余りに9頭を採集できたほどで、次から次に飛来してくる印象があった。しかし現在ではせいぜい1～2頭が縄張り飛翔している程度であり、全く見られないことも珍しくない。明らかに減少していると言えよう。またキイロヤマトンボ以外の種の多くも、同様の減少傾向があると推測される。

○分布拡大している種

吉田(2000)で報告したように1980年代には現豊田市の矢作川水系でコシボソヤンマは確認できなかった。しかし、1998年以降に犬伏川支流の木瀬川で採集されたのを手始めに、矢作川水系での記録が少しずつ増え始め、今回の調査では笹戸ダムのすぐ下流でも確認された。鶴殿(2008)も阿摺川水系や摺小川水系で記録が増えていることを報告しており、コシボソヤンマが矢作川水系でゆっくりと分布を拡げていることが推測される。

○今回確認できなかった種

矢作川本流周辺で記録があるものの、筆者が確認できなかったのは以下の3種である。

メガネサナエ：百々町・平井町(小林, 2005)；

月原町(鶴殿, 2008)

ナゴヤサナエ：扶桑町(小林, 2005)

キイロサナエ：渡刈町・畝部東町(小林, 2005)

筆者は2006年9月2日に西広瀬町の飯野川河口で多数のミヤマサナエに混じって大型のサナエトンボ1頭を目撃しており、メガネサナエかナゴヤサナエである可能性が高いが、確認することはできなかった。

キイロサナエはやや泥の多い砂泥底を好み、大河川よりも小河川や用水路等を好む傾向にある。今後豊田市の矢作川で確認されるとすれば、泥底の少ない山間部ではなく、市街地に近い場所である可能性が高い。

○今回採用しなかった種

以下の2種が豊田市内の矢作川本流周辺から報告されているが、今回は採用しなかった。

クロサナエ：畝部東町・富田町（小林，2005）

ヒメサナエ：藤沢町・平戸橋町（小林，2005）

不採用の理由として、クロサナエは源流～上流部に分布するサナエトンボであり、豊田市でも山間部には分布する。しかし同属のダビドサナエと酷似し、誤同定の可能性があるので今回は不採用とした。

ヒメサナエは特異な分布を示すサナエトンボであり、豊田市の矢作川水系では、巴川水系に限って分布していることが鶴殿（2008）の報告や筆者の調査結果から判明している。なぜ巴川水系と接続している他の矢作川水系に分布を拡げないかは不明だが、過去のトンボ研究者のデータから藤沢町・平戸橋町の記録は除外しておく。

謝 辞

調査に同行してくれた池竹弘旭、内田臣一、竹原茂信、油井雅樹の各氏、標本を提供してくれた間野隆裕と西村雄貴両氏に感謝したい。

引用文献

- 小林広成（2005）トンボ目。豊田市自然環境基礎調査報告書〈昆虫編〉。豊田市。
- 鶴殿清文（2008）愛知県豊田市足助地区（旧東加茂郡足助町）のトンボ。佳香蝶，60（234）：85-105。
- 吉田雅澄（1992）9月のキイロヤマトンボ。Aeschna，（26）：18。
- 吉田雅澄ほか（2000）愛知県市町村別トンボ分布表。佳香蝶，52（201）：13-23。
- 吉田雅澄（2000）愛知県矢作川におけるコシボソヤンマの分散例。Aeschna，（37）：28。
- 吉田雅澄・成田茂生（2001）愛知県市町村別トンボ分布表への追加1。佳香蝶，53（206）：23-25。
- 吉田雅澄（2001）トンボ幼虫の採集・飼育記録，第4報。Aeschna，（38）：27-34。
- 吉田雅澄（2007）愛知県市町村別トンボ分布表2006。Aeschna，（43）：1-8。
- 吉田雅澄（2008a）トンボ幼虫の採集・飼育記録，第9報。Aeschna，（44）：11-14。
- 吉田雅澄（2008b）エゾトンボ科に関する知見2題。Aeschna，（44）：22。
- 吉田雅澄（2008c）愛知県市町村別トンボ分布表2006への追加。Aeschna，（44）：26-28。

〔 〒 475-0876 半田市東天王町 1-30-30 〕